かずさの博物誌

タゲリ

～みやびでやさしい大型チドリ～

文・写真／成田篤彦

2013.12.20

先月下旬、浮戸川に沿った水田地帯を車で走っていた。

多くの水田は二番穂が伸びたままであった。しかし、なかには荒耕作が行われた直後の水田もあった。そこに、十数羽のタゲリが群がっていた。頭に飾り羽が伸び、ほほが白い。真丸な眼。背は濃い緑色をしていて、光沢がある。肩の部分には赤い色がうっすらとかかっている。小さなクジャクのようであった。

車から降り、カメラを構えた瞬間、「ニャー、ニャー」と子猫のような鳴き声で鳴き、幅広いつばさをゆったりと羽ばたいて、ふぁーと飛び上がり、あっという間に見えなくなった。シャッターを切る間もなかった。

下から見るとつばさの先端と腹は真っ白、その他は真っ黒だ。見事なコントラストだ。背は豪華な着物を羽織っているように見えるが、つばさの下側も簡素なデザインの模様で粋であった。飛んでいる姿もみやびやかでやさしい感じがした。

今月になって、細い用水路わきの農道を通った時、耕作された真っ黒な土の水田にタゲリの頭の飾り羽が見えた。タゲリは三羽いた。

かれらは水田の水たまりに短いくちばしを差し込み、えさを探っていた。電信柱に姿をかくしてカメラを構えるとこちらをじっとみて、すこしつづ、水田の奥の方へ移動していく。私を警戒している。

「二十五メートルは充分にある。逃げるはずがない」と思ったが、あっと言う間に飛び去った。また、舞い戻ってきたが、私に気付いたのか、水田には降りずに、飛び去って行った。

残念だが、タゲリに嫌われた。

これ以上、追い回すとこの場所にやって来なくなる。すぐに立ち去ることにした。

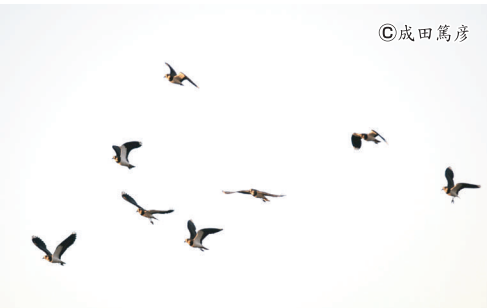
だが、なぜ、二番穂が生えている水田におりないのか？と不思議に思った。きっと背が濃い緑色なので、土色の方が目立たないし、掘り起こしてあるので、ミミズや昆虫の幼虫などのえさを得やすいのであろう。

それにしても、毎年、同じ一枚の水田を訪れるから、冬を過ごせる場所をよく覚えているのに違いない。

タゲリは一度、野外でみたら、忘れられない魅力的な野鳥だ。いつまでも上総に訪れて欲しいのだが、年々やってくる数が減っているのが気がかりである。

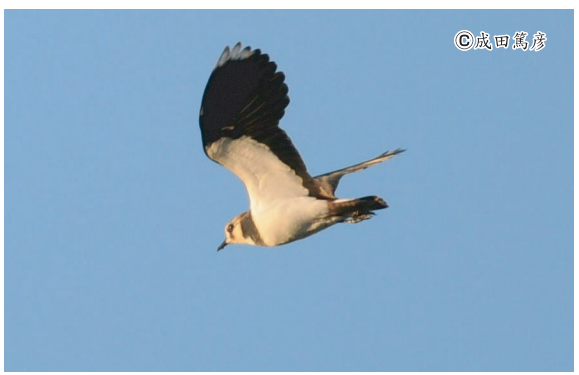
◀水田で休むタゲリの群れ
＝二〇〇八年十一月二十日　木更津市

▲屋敷林のまわりを飛ぶタゲリ
＝2011年1月24日　木更津市



▲夕日をあびて群れ飛ぶタゲリ
＝2008年11月20日　木更津市

▲湿地でえさをさがすタゲリ
＝2013年12月16日　木更津市



▲飛ぶタゲリ、白と黒のコントラストが美しい
＝2008年11月20日　木更津市

memo

タゲリ

チドリ目チドリ科

冬鳥または旅鳥。県指定要保護生物、全長約三十一㎝。ユーラシア大陸の温帯地域に広く分布。冬は南下して越冬する。県内では県北部から木更津市、茂原市、夷隅郡などの水田地帯に主に冬鳥として渡来する。警戒心が強く、人が近づくと群れ全体が一斉に飛び立つ。ミミズ、貝などを捕える。県指定要保護生物。

参考文献　千葉県の自然誌本編七。

◎写真・文章の無断転載を禁じます。